

1U-9

情報システム方式設計における打合せ業務

高原利生¹ 新谷洋人² 五十栖歳之¹ 鈴木かおり¹

富士通ネットワークエンジニアリング(株)¹ 九州芸術工科大学²

1. はじめに

筆者らは、公共情報システムの方式設計（システム設計）[2]～[10]に携わっている。本稿は、方式設計業務における打合せ業務の分析を行い、今後の課題を明らかにしようとするものである。

2. 方式設計における打合せ業務

2.1 方式設計

方式設計担当者の業務は、大別して調査・設計のフェイズと試験・保守支援のフェイズに別れる。調査・設計と試験・保守支援は、方式設計担当者が外部に対して実現するマクロな機能である。これを実現するための要素機能は判断、打合せ・会議・電話などによるリアルタイムコミュニケーション、及びドキュメントによるオフラインコミュニケーションである。

2.2 打合せの位置づけ

業務におけるリアルタイムのヒューマンコミュニケーションを分類すると表-1のようになる。

すなわち、事前に定まっていなかった内容を決定するための双方向のコミュニケーションが打合せ（協議）であり、この点が報告、折衝、指示等と異なる。また、他のヒューマンコミュニケーションと同様、打合せも、直接のコミュニケーションの場合と、電話等の技術手段やドキュメントを介する場合がある。

コミュニケーション内容 通信形態		認識のため		決定のため		
		事前に定まっている	事前に定まっていない	事前に定まっている	事前に定まっていない	
					望ましい内容は定まっている	望ましい内容も定まっていない
一方向	下位から上位へ	報告	調査	依頼	——	——
	上位から下位へ	連絡	調査	指示	——	——
双方向		——	——	——	折衝、説得	打合せ（協議）

表-1 業務においてリアルタイムに行われるヒューマンコミュニケーションの分類

3. 打合せ

3.1 打合せの構造

打合せは次の4項組で表される。

打合せ = (打合せ内容, 打合せ参加者, 打合せ日時, 打合せ場所)

打合せ内容 = (参加者の打合せ前の情報と打合せ後の情報の差)

打合せは外界（状況）に与えると予想される効果と、必要と予想されるコスト、時間等の代償の比較により、実施が決定され、他のコミュニケーション [1] と同様、事前の打合せの仮想像(1) が総合的に定まる。他のコミュニケーションとの相違は、打合せ内容の仮想像が事前には定まりにくい点と、打合せ参加者, 打合せ日時, 打合せ

Making Arrangement in Information System Design Work

TAKAHARA Toshio¹ SHINGAI Hiroto^{1,2} ISOZUMI Toshiyuki¹ SUZUKI Kaori¹

Fujitsu Network Engineering Ltd. Osaka Branch¹

1-5-13 Katamachi, Miyakojima-ku, Osaka, 534 Japan

Kyushu Institute of Design²

4-9-1 Shiobara, Minami-ku, Fukuoka, 815 Japan

場所が、参加者の予定に決定的に規定される点である。定期的な打合せの場合、打合せ参加者、打合せ日時はその都度決定する必要は無い。仮想像(1)の決定者は一般に実際の参加者を含み、これに職制上の上位者が加わることがある。

実際の打合せは、表-1に示すヒューマンコミュニケーション要素を組み合わせて行われる。この個々の打合せ構造の決定とより詳細な打合せ内容の方向づけが打合せの実行前に行われる(仮想像(2)の決定)。定型的な打合せの場合、個々の打合せ構造の決定はその都度行う必要は無い。このように仮想像(2)の決定が仮想像(1)の決定と分離することが他のコミュニケーションとの第二の相違である。仮想像(1)(2)の決定の後、物理的に打合せは実行される。仮想像(3)は打合せ参加者の発言直前の発言の論理的内容の集合体である。図-1にこれらの過程を示す。

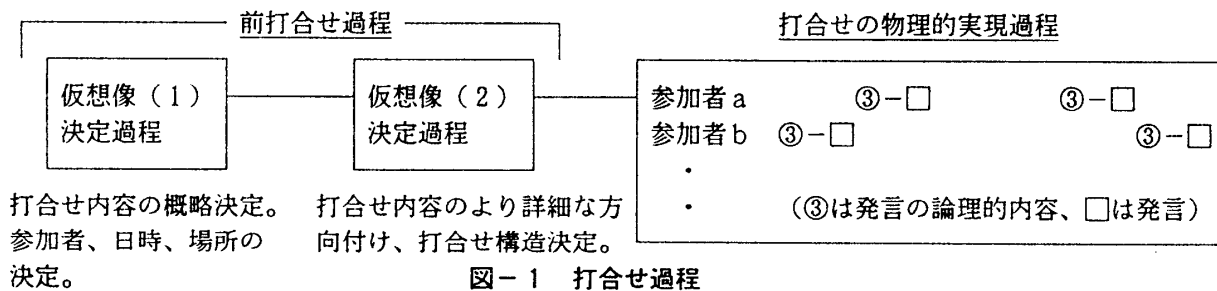


図-1 打合せ過程

3.2 打合せ間の構造

打合せは個人で行う他の作業及び他の打合せと関連して行われ、全体の業務の中に位置づけられる。個人の他の作業との分担と打合せ間の関係をどう決定するかは全体の業務の質と効率に大きく影響する。打合せ間の関係としては、①同一テーマの打合せが時間の経過に沿って順次行われるもの(これには定期的な打合せと非定期的な打合せとがある)、②水平的分業によって行われるもの、③階層的トポロジの中に位置づけられるものがある。

3.3 方式設計と打合せ

方式設計における打合せには、①打合せ内容が共同での技術内容決定、分担決定、共同での工程推進等に限定される点、②打合せ実施の代償がコスト基準であること、③企業の組織形態が前提となることという特殊性がある。

方式設計技術者は、方式設計が全設計を総括し、方式設計技術者がプロジェクト全体を総合的に管轄するという立場から、打合せについても、①業務の中での位置づけを明確にして打合せ間の構造を決定し、②仮に個々の打合せを主催しない場合でも、打合せの構造を的確に意識して目的の達成を図る、③打合せを主催する場合は、打合せ構造の決定、打合せ開始、終了時間の管理も含んだ打合せの物理過程の管理を行う必要がある。

4. おわりに

打合せの概略検討を行った。今後、前打合せ過程を含めた詳細な打合せ過程の分析、最適な打合せの構造を決定する論理の検討を行う必要がある。

最後に、日頃、ご指導、ご鞭撻頂く早稲田大学堀内和夫教授、九州芸術工科大学瀧山龍三教授、当社林義昭代表取締役社長、滝澤省吾取締役、津村盈児大阪事業所長、畑睦男取締役及び才村恵さんに感謝申し上げます。

【参考文献】

- [1] 高原：「通過程の論理構造について」, 情報理論とその応用システム SITA' 90, pp.687~692, 1991
- [2] 高原、新谷他：「センバースネットワークシステム等の設計過程と論理構造の構造関数」, 情処42回全大, 5G-5, 1991
- [3] 高原、新谷他：「センバースシステムの既設システムから新設システムへの移行についての一考察」, 91信学春全大, A-306, 1991
- [4] 高原、新谷他：「方式設計過程のモデル化」, 情処44回全大, 3E-9, 1991
- [5] 高原、新谷他：「情報システム方式設計についてのノート」, 平4電学北陸連大, B-207, 1992
- [6] 高原、新谷他：「情報システム方式設計業務における総合決定」, 情処48回全大, 7S-6, 1994
- [7] 谷口、高原他：「情報システム方式設計におけるシステム試験の支援」, 平6北陸連大, B-30, 1994
- [8] 五十栖、高原他：「情報システム方式設計における折衝業務」, 平6北陸連大, B-31, 1994
- [9] 高原、竹田他：「情報システム方式設計業務におけるドキュメント生成」, 平6北陸連大, B-32, 1994
- [10] 高原、鈴木他：「情報システム方式設計におけるドキュメント生成過程の分析」, 情処50回全大, 1M-6, 1995